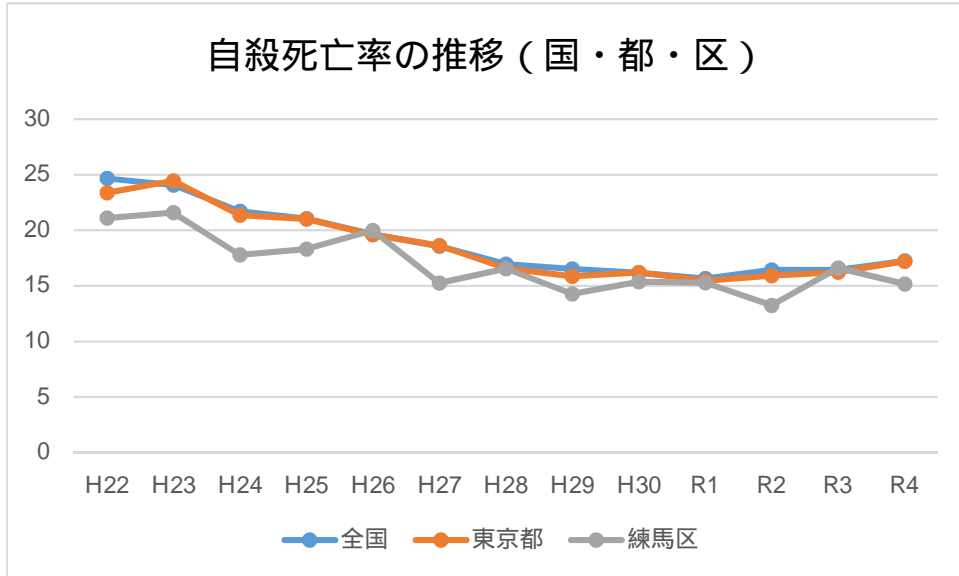


1 自殺死亡率

全国、東京都、練馬区の自殺死亡率はいずれも減少傾向にあったが、コロナ禍で増加に転じた。

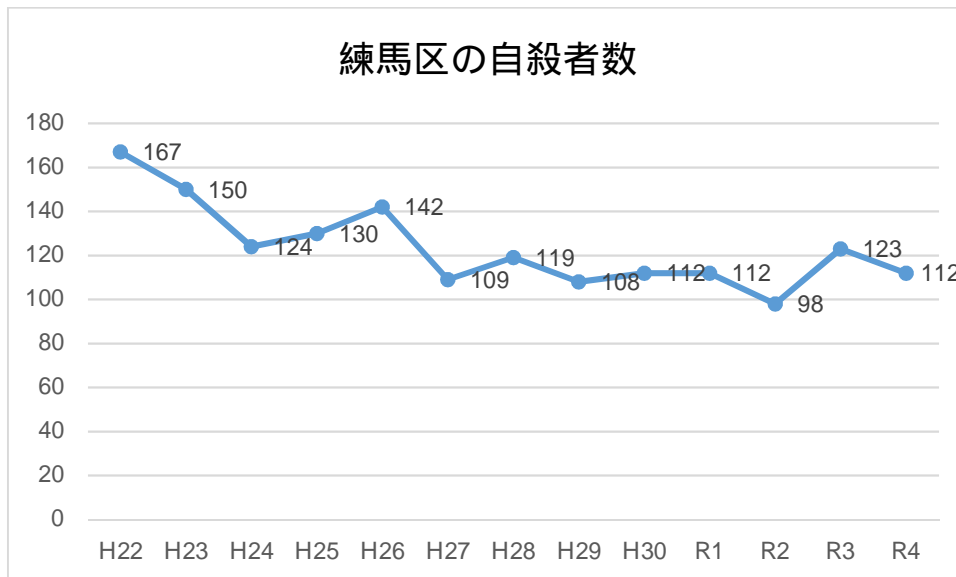


自殺死亡率：人口 10 万人あたりの自殺者数

資料：警察庁自殺統計 発見日/居住地（厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」）

2 自殺者数の推移

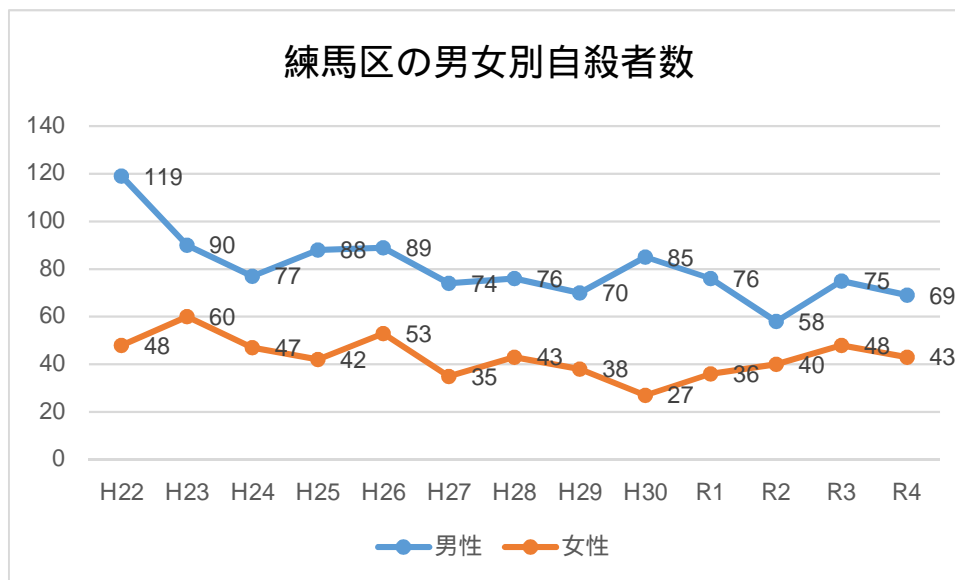
練馬区の自殺者数は減少傾向にあったが、コロナ禍で増加に転じた。



資料：警察庁自殺統計 発見日/発見地（厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」）

3 男女別自殺者数

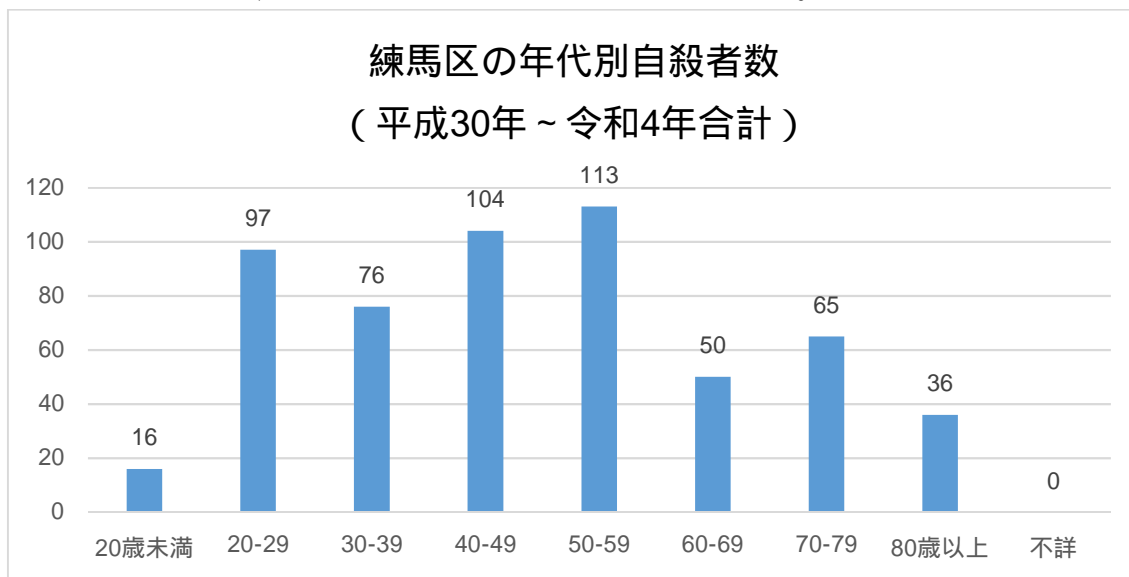
平成 30 年以降、女性の自殺者数は増加傾向にあり、男女差が縮まっている。



資料：警察庁自殺統計 発見日/居住地（厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」）

4 年代別自殺者数

平成 30 年～令和 4 年までの 5 年間で、50 歳代が 113 人、40 歳代が 104 人、20 歳代が 97 人、次いで 30 歳代が 76 人となっている。



資料：警察庁自殺統計 発見日/居住地（厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」）

5 年齢階級別死因

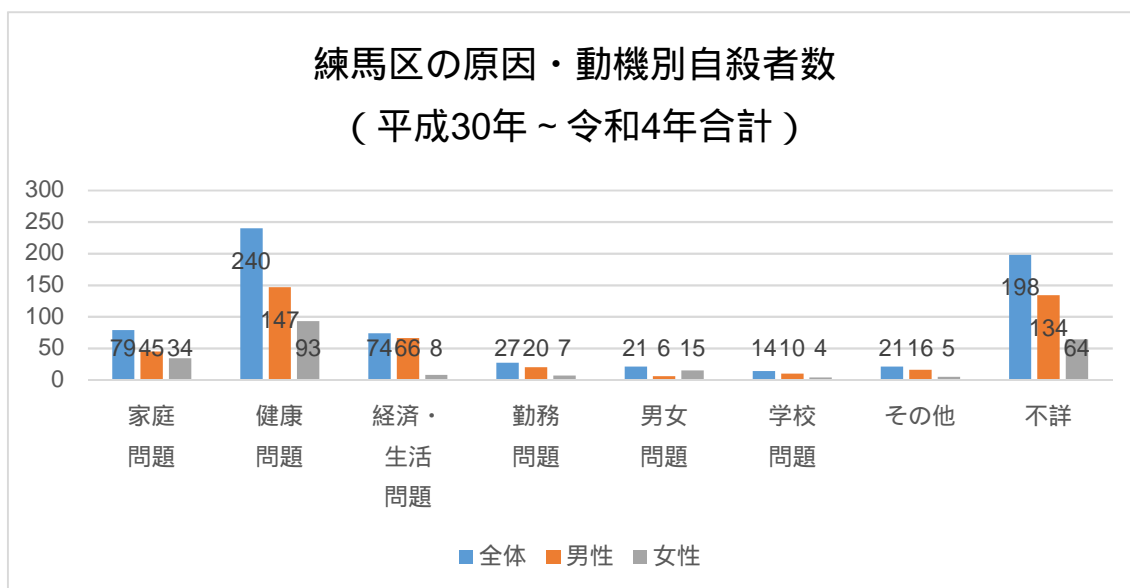
20歳未満、20歳代および30歳代における死因の第一位が自殺である。

年代	第一位	第二位	第三位
20歳未満	自殺	心疾患 肺炎	—
20-29	自殺	不慮の事故	悪性新生物 肝疾患
30-39	自殺	悪性新生物	心疾患
40-49	悪性新生物	自殺	肝疾患
50-89	悪性新生物	心疾患 脳血管疾患	—
90歳以上	老衰	心疾患	脳血管疾患

資料：厚生労働省「人口動態統計」

6 原因・動機別自殺者数

男女とも健康問題が最も多く、家庭問題、経済・生活問題が続いている。

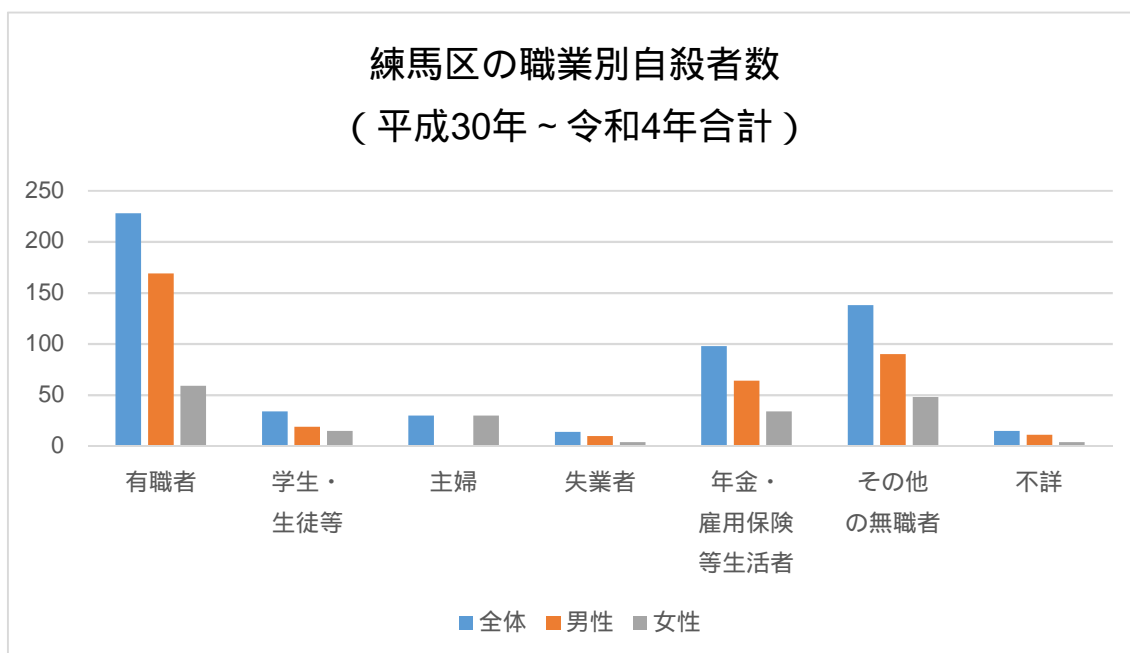


遺族等から得た自殺を裏付ける資料により明らかに推定できる原因・動機を3つまで計上としている。

資料：警察庁自殺統計 発見日/居住地(厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」)

7 職業別自殺者数

職業別自殺者数は、有職者が多く、次いでその他の無職者()が続いている。

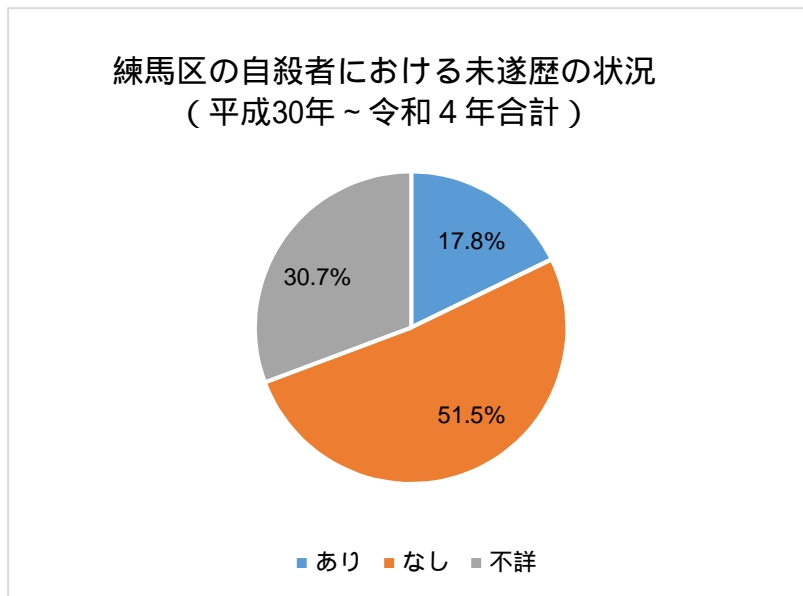


その他の無職者…主婦、失業者、年金・雇用保険等生活者以外のすべての無職者

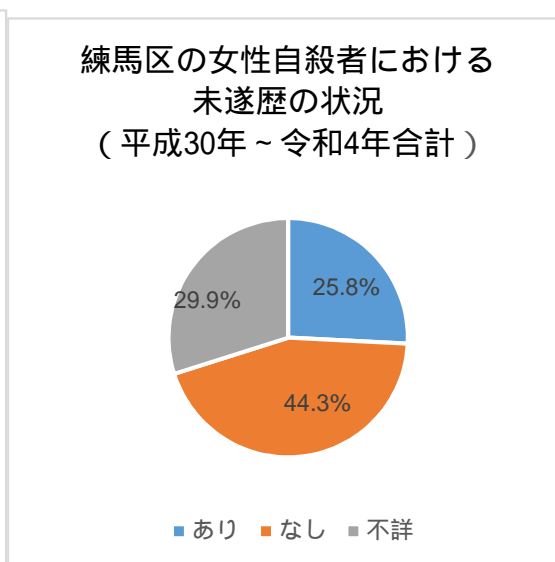
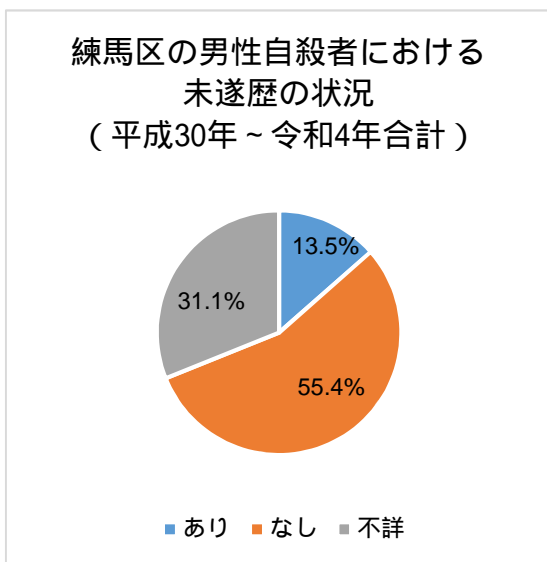
資料：警察庁自殺統計 発見日/居住地(厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」)

8 自殺未遂歴の状況

自殺者全体のうち自殺未遂歴のある人の割合は、17.8%である。女性自殺者全体のうち自殺未遂歴のある人の割合は25.8%で、男性に比べて割合が高い。



資料：警察庁自殺統計 発見日/発見地（厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」）



資料：警察庁自殺統計 発見日/発見地（厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」）

9 自殺者数の多い集団

自殺総合対策推進センターが練馬区の自殺の実態を分析した、「地域自殺実態プロファイル」による5年間（平成29年～令和3年）の自殺者数の多い集団の特徴は以下の通りである。

上位5区分	自殺者数 5年計	割合	自殺死亡率 (10万対)	背景にある主な自殺の危機経路
1位:男性40～59歳 有職同居	51	9.2%	13.0	配置転換 過労 職場の人間関係の悩み + 仕事の失敗 うつ状態 自殺
2位:男性60歳以上 無職同居	48	8.7%	28.2	失業(退職) 生活苦 + 介護の悩み(疲れ) + 身体疾患 自殺
3位:女性40～59歳 無職同居	37	6.7%	16.6	近隣関係の悩み + 家族間の不和 うつ病 自殺
4位:男性20～39歳 有職同居	34	6.1%	14.0	職場の人間関係 / 仕事の悩み(ブラック企業) パワハラ + 過労 うつ状態 自殺
5位:男性40～59歳 有職独居	33	6.0%	31.8	配置転換(昇進/降格含む) 過労 + 仕事の 失敗 うつ状態 + アルコール依存 自殺

自殺死亡率の算出に用いた人口(母数)は、総務省「令和2年度国勢調査」就業状態等基礎集計を基にJSCPが推計したものである。

「背景にある主な自殺の危機経路」は、NPO法人ライフリンク「自殺実態白書2013」を参考に推定したものである。自殺者の特性別にみて代表的と考えられる経路の一例を示しており、記載の経路が唯一ではないことに留意すること。

【現行計画策定時のプロファイルとの比較】

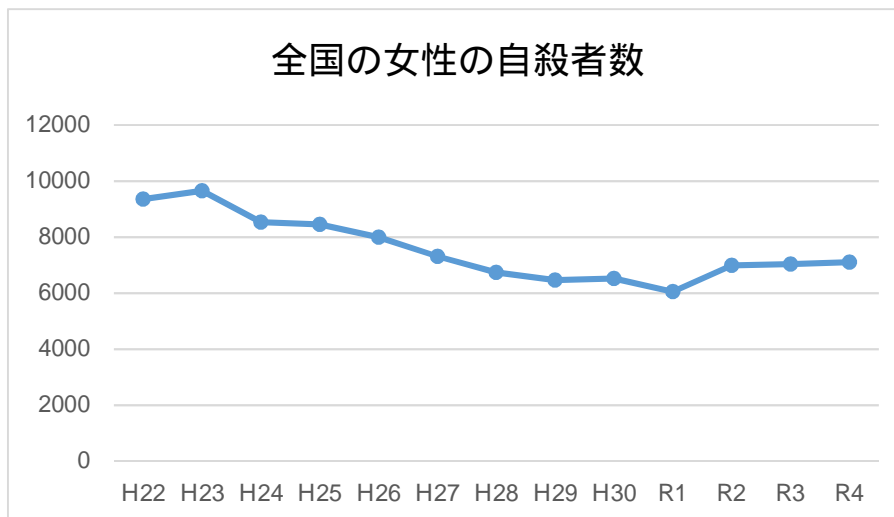
男性40～59歳有職同居	前回	4位	今回	1位
男性20～39歳有職同居	前回	上位5区分外	今回	4位
男性40～59歳有職独居	前回	上位5区分外	今回	5位

働き盛り男性の自殺者の占める割合が、大幅に増えている。

10 全国の自殺者数のうち特徴的な事項【参考】

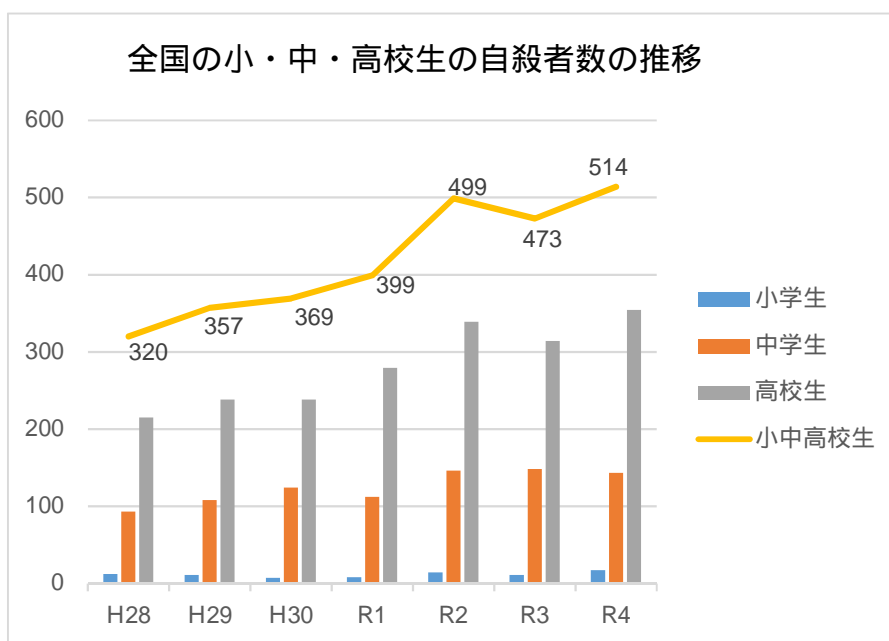
全国の女性の自殺者数

女性の自殺者数は、3年連続で増加している。



全国の小・中・高校生の自殺者数

令和4年の小・中・高校生の自殺者数は、過去最多となっている。



11 練馬区の現状からみる課題

「地域自殺実態プロファイル 2022」における地域の主な自殺者の特徴第1位である「男性 40～59 歳の有職同居」、4位の「男性 20～39 歳有職同居」、5位の「男性 40～59 歳の有職独居」(＝働き盛り男性)を対象とした取組の強化が必要である。

女性の自殺者が年々増加している。「地域自殺実態プロファイル 2022」における地域の主な自殺者の特徴第3位である「女性 40～59 歳無職同居」を対象とした取組が必要である。また、厚生労働省から提供を受けた死亡小票の情報も集計し、要支援対象者の把握に努め、必要な支援を行う。

20 歳未満、20 歳代、30 歳代の死因の第一位は自殺である。今後も引き続き若年者を対象とした取組が必要である。

自殺者全体のうち自殺未遂歴のある人は 17.8%であるため、自殺未遂者支援に取り組む必要がある。

「地域自殺実態プロファイル 2022」では、高齢者、生活困窮者、無職・失業者の支援に取り組むことが推奨されているため、引き続き支援していく必要がある。